

第17回 JCHO 登別病院 地域協議会 議事録

日時 令和6年3月21日(木)16:00～16:45

場所 JCHO 登別病院 会議室

出席者

[委員]	白老町役場 健康福祉課 課長	渡辺 博子
	登別市役所 保健福祉部 部長	平田 雅樹
	登別市消防本部 消防長	三好 一也
	白老町消防本部 消防長	後藤 悟
	登別市登別連合町内会 会長	中川 信市
	登別東町第3町会 会長	本田 宏

[当院]	院長	石川 典俊
	看護部長	沓澤 佳代子
	事務長	長尾 真人
	事務長補佐(総務企画)	後藤 学
	地域連携室室長	伊藤 洋介

1. 次第

司会・議事進行：事務長補佐 後藤

- (1) 開会
- (2) 院長挨拶
- (3) 業務報告
- (4) JCHO 学会報告内容について：石川院長
- (5) 質疑応答
- (6) 閉会

2. 業務報告

1) 業務報告：長尾事務長 (別紙参照)

- ①入院の利用状況について
- ②外来の利用状況について
- ③手術・健診件数について
- ④紹介件数・逆紹介件数について
- ⑤内視鏡検査件数について

2) JCHO 学会報告内容について：石川院長 (別紙参照)

3. 質疑応答

- (中川) 1月に石川県能登地震があった。登別では被災は1万人と想定され、近隣では9つの町内会連合でも海岸地域を含めた連携を考えている。防災訓練は毎年行っているが、JCHOと地域の防災や避難対策の連携や協定を図りたいと考えている。
- (院長) 災害拠点となる想定はしており、3階に食糧備蓄や電源確保のため電源配置などの対策もされている。コロナで地域住民との防災対策など交流は行えていないが、当院の責務と考えている。
- (中川) 防災訓練などJCHOと登別市、町内会などで話し合えるような場を考えていきたい。
- (院長) 胆振東部地震の時は、むかわ病院の院長をしており、当院の設備にも役立てている。
- (中川) 登別駅前ヌブルは水害には対応できるが津波には対応できないのでJCHO施設の活用、協力をお願いしたい。
- (本田) 4丁目の住宅は現在どのようなになっているのか。
- (後藤補佐) A・B棟あり、A棟は年数経過にて住居者がいなく、防犯上入れないようにしているため避難指定は解除。B棟は4階まで上がれるように避難指定となっている。
- (中川) 57病院では地域と連携しているのか。
- (院長) 各病院でしていると思う。
- (三好) 消防活動として災害時は、まず初めに救急車などを高台に上げるところから始まり、津波が引いた後に災害活動が始まる。太平洋側は受援対象となり登別には札幌や旭川から応援が入る。
- (後藤補佐) 登別市としてはどうか。
- (平田) 断定した話はないが、医療提供体制として期待されていると思う。
- (三好) まずは自分・家族の身の安全確保の後に行動を起こすことが大切。
- (中川) 災害の種類、土砂崩れや高速道路崩壊など地域ごとの細かな対策を考えていかなければならない。
- (院長) 白老方面としてはどうか。
- (渡辺) 白老では公民館などが避難所とされており、福祉避難所としては3か所指定されている。登別側であれば北海道リハビリテーションセンターが指定されているが、倒壊状況など災害状況による。
- (後藤) 高いところへの避難といっても、高齢者では避難することが難しいことがある。病院では入院患者がいる中で、住民が押し寄せてきたときの対応が大変ではないか。
- (三好) 停電時は、明かりがついている建物に集まる。一番困るのが携帯電話の充電。
- (院長) 阪神淡路大震災からは防災や火災対策は確実に進歩している。JMATなども活動しており災害派遣についても進歩している。
- (三好) 今年度で消防長の任は降りることとなり、後任には沼田が昇格予定。
- (後藤) 今年度で定年退職となる。次年度以降は内示出ていない。
- (後藤補佐) 地域協議会の任期は2年となっており、次年度更新の予定となっているので引き続きご協力を願いたい。
- 以上で地域協議会を終了させていただきます。次回の地域協議会については詳しい日取りなど決まりましたら連絡いたします。

以上